

平成12年度内陸文化交流室活動報告

平成12年

4月 内陸文化交流室を信州大学人文学部内に設置

目的 一 人文学部が地域文化の研究・交流ネットワークの要となるべく、本学部と学内外の研究者、学外の団体・市民との間の学術的、文化的交流の発展に努めるとともに、内陸地域の文化的な特質と意義を明らかにし、そのあるべき将来像を社会に向けて提示する。

事業

- *内陸文化についての研究・交流プロジェクトの企画・運営の促進
- *内陸文化研究における国際的・学際的協力の促進
- *学内外の研究者、学外の団体・市民との間の内陸文化に関する共同研究の促進
- *研究会・講演会等の文化交流にかかわる行事の開催
- *研究報告書・機関雑誌等の発行

組織等 一 内陸文化交流室に幹事5名を置き、幹事会を構成し、交流室の運営に当たる。

9月18日 内陸文化研究会第1回会合の開催（以後、4回の会合を開催）

〔出席者〕 村山研一（信州大学人文学部教授）・吉田隆彦（信州大学人文学部教授）・笹本正治（信州大学人文学部教授）・佐々木隆（信州大学農学部教授）・倉石忠彦（國學院大學文学部教授）

10月 人文学部から応募していた「内陸文化についての人文科学を基軸とした総合的研究」に、平成12年度教育改善推進費（学長裁量経費）の教育研究改革・改善プロジェクト経費が充てられることとなる。

→ 以後、内陸文化交流室が主体となって、内陸文化にかかわる図書資料の選定・発注などを進める。

11月3日 第1回信州大学人文学部内陸文化研究シンポジウムの開催

（於・信州大学旭会館）

〔主催 一 信州大学人文学部、企画・運営 一 内陸文化交流室〕

テーマ： 内陸文化とは 一 そのネットワークを探る

「内陸文化」とは何か、「内陸文化」を研究することにはいかなる有効性があるのかという根源的な問い掛けを念頭に置きながら、内陸地域の文化の深層、しゅみを発見的に認識するために、ネットワー

クという問題に着目して、3人のパネリストによる報告と、その報告をもとにした討論を行った。

パネリスト報告

鈴木慎一郎（信州大学人文学部助教授）

「カリブ海地域における内陸文化—グローバル化のなかの差異」

山本英二（信州大学教育システム研究開発センター助教授）

「内陸文化と信州の歴史」

中嶋聞多（信州大学人文学部助教授）

「ネットワークという問題」

コーディネーター 佐倉由泰（信州大学人文学部助教授）

平成13年

2月13日 信州の観光フォーラム～もてなしのこころとネットワークづくり～の開催
（於・松本市中央公民館〈Mウィング〉）

〔主催 — 内陸文化交流室、企画・運営 — 内陸文化交流室・人文学部文化
情報論講座〕

「もてなしのこころ」と「ネットワークづくり」をキーワードに、
さまざまな立場の方々を迎えて、信州の観光について話し合うパネ
ルディスカッションを行った。

パネルディスカッション ゲスト

コーディネーター 瀬戸川礼子（ジャーナリスト）

パネリスト 表 秀孝（長野大学産業社会学部教授）

瀬田信哉（自然公園美化管理財団）

鳥居総一郎（ホテル白樺荘代表取締役社長）

事例レポート 信州大学人文学部中嶋研究室

3月30日『内陸文化研究』創刊号発行